

(令和4年6月3日 午後1時)

●議長(佐藤武雄) 会議を再開します。

通告の3、森山木の実議員。

- 1、町の公共施設にオストメイト対応のトイレを
- 2、信濃小中学校の食育について

議席番号8番森山木の実議員。

◆8番(森山木の実) 議席番号8番森山木の実です。今日は町の公共施設にオストメイト対応のトイレを、それから信濃小中学校の食育について、この2点について質問いたします。町長に伺いますが、オストミーとかオストメイトという用語をご存知でしょうか。

●議長(佐藤武雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 森山議員さんから今、オストミー、オストメイトという言葉を知っているかと、こういうことでございます。私は正直申し上げて、この言葉は知りませんでした。その後、調べまして、いわゆる人工肛門、人工膀胱と言いますか、その皆さん方の関係に関わる言葉だということを承知いたしました。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) その通りでして、私も最近まで知らなかったのです。こういうのは、なってみて初めて分かるわけです。オストミーというのは、人工肛門、人工膀胱を造設する手術、それをした人を、人工肛門、人工膀胱の保有者をオストメイトと言うそうです。これからはずっと、この人工肛門、人工膀胱をつけて、ストーマと言いますけれども、生きていく方は、申請すれば障害者手帳が交付されます。外見だけでは分かりにくい障がいですから、日常では不便なことが多々あると思います。オストメイトとして障害者手帳も持っている人は町で何人くらいおられますか。

●議長(佐藤武雄) 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長(柄澤 豊) それでは私の方からお答えをさせていただきます。膀胱及び直腸機能障害のくくりで障害者手帳をお持ちの方は、令和3年度末時点で19名でございます。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) 思ったより結構いらっしゃるんですね。皆さんそれぞれ工夫して生活していらっしゃると思いますが、そういう方たちの声、つまり、どんなことが不便か、何があれば暮らしやすくなるかなどの声はキャッチしておられますか。

●議長(佐藤武雄) 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長(柄澤 豊) 議員おっしゃいましたとおり、日常生活や外出、お仕事等で不自由な面が多々あると思います。今のところ、福祉窓口において、生活面に關わる具体的なご相談はいただいておりません。ちなみに町には、障害者日常生活用具給付等事業実施要綱というものがございます、いわゆる日常生活のそういった装具につきまして、一部負担がございますけれども、補助をしております。ちょっと専門的な用語を使って申し訳ないのですが、ストーマ装具、いわゆる排泄管理用具につきましても、費用面において補助をさせていただいているところでございます。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) ストーマ装具ですね、高いですよ。それだとやはり、補助があれば、大変助かるだろうなと思います。これ、例えば、袋ですね。ストーマから袋がぶら下がっているわけですけども、排泄物を受ける袋、例えば、ここにパウチに溜まったものを捨てる時とか、パウチを交換する時などは、自宅のトイレを使っている方がほとんどだと思います。でも自宅の外で起きる思わぬ出来事で、困った経験のある方もいるでしょう。町に住んでいる人はまだ良いとして、外から仕事で来ている人、それから日帰りの観光で来ている人にとっては、オストメイトの対応トイレがあるかないかで、例えばパウチの交換、それからパウチの中の排泄物を捨てる、そういうことができる場所というのは、なかなか見つからなくて困ると。オストメイト対応のトイレがあるのかなのか、あるなら、どこにあるのか、この障がいはいあまり知られていないので、聞いてもわかる人が少なく、それは何だいと言われる、少なく困ることはやはり多くあると思います。特に災害の時、災害の時に苦労するのはオストメイトだけではなく、様々な障がいを負った方についても言えますけれども、今日はオストメイトに絞って聞かせていただきます。最近高速道路のパーキングエリアとか公共施設の多目的トイレに、オストメイト対応のトイレを設置するところが増えていきます。先ほど知ったのですが、信濃町の道の駅、国交省のあそこ、情報センターの、あそこにも対応トイレがちゃんあると、この町の施設では、あれはないということになるのですかね。それにしても信濃町に例え行きやすいところに1か所でもあるというのはありがたいという事だと思います。新しく新築するたびにそういうのが増えいくのですけれども、それだけニーズがあるということだと思っております。信濃町では20人弱としても、外から来る人とか、いろいろな人がいまして、ニーズがあるということだと思っております。この質問をするにあたって、長野市とか近隣の自治体の施設を見て歩きました。新築した役場とか、大手のドラッグ

ストアにはだいたいあるのです、オストメイト対応のトイレが。いざという時は役場に飛び込めばいいし、そのドラッグストアが開いていれば飛び込めばいいと、そういうことがわかっているならば、安心して町に来ることができる。さて、信濃町の公共施設では、どこに設置してありますか。この通告書、読んだ職員の方は、これは絶対信濃町ではどこにあるかと聞かれるなど推測して、リストアップしてくれているのではないかと期待してお聞きしますが、信濃町の公共施設ではどこに設置してございますでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) 公共施設、それぞれ所管されるのですが、総務課の方で取りまとめましたので私のほうでお答えさせていただきます。先ほど議員さんが自らお話があったとおりでございます。町の公共施設には設置してございません。ただ町内の公共施設においては、国土交通省管理のトイレに設置されているところでございます。以上です。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) ないというのが、ちょっとびっくりです。これは必要ないと思っ
ているわけではなくて、やはり今までの私と同様に、知らなかったということではないか
なと思うのです。これがあることによって、どんなに助かるか、ないことによってどん
なに不便かということを知らない。信濃町では知っている人はいなかったではないかな
と思います。例えば信濃町に観光で来るお客から、そちらにはオストメイト対応のトイ
レはありますか、と聞かれることもあるかもしれないです。宿泊施設や公的施設にはあ
りますか、と問い合わせがあった時に、きちんとご案内できることって、町の観光にと
っても大変有効だと思うのですけれどね。以上を踏まえまして、最後にお聞きします。
このトイレに関して最後の質問になりますが、一番聞きたかったことなのですから、
新しい病院にはオストメイト対応のトイレは設置する予定でしょうか。

●議長(佐藤武雄) 丸山病院事務長。

■病院事務長(丸山茂幸) 基本設計が終わった段階で、現在、新しい病院の1階の中央待
合室のスペースの奥の階段横にある患者様用の多機能トイレの中に、オストメイト用設
備、1か所、器具を1か所設置予定でございます。あと2階の病棟ですが、患者様用の
トイレが中央に2か所、多機能トイレということであるわけですが、そこにもオストメ
イト用の設備を、器具を設置する基本設計となっております。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) それを聞いて安心しました。良かったです。病院にないと言うのは

ちょっとね、信じられないことでしたので、大変良かったと思います。病院には絶対必要です。当事者はなかなか自分から要望を言いづらいのですよ、この障がいは。ですから当事者の声を聞いて、これからも他の公共施設でもオストメイト対応トイレを設置すべきだと思いますけれども、そこはどのようなお考えをお持ちでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 大事な、今、ご質問の中で、ご指摘を頂戴しておりまして、ありがとうございます。先ほど言葉自体、このカタカナの言葉もあまり理解していなかったということも、正直申し上げたのですが、今、お話のように、大変切実な要望と言いますか、ご質問、踏まえての質問だと理解をさせていただきました。今後の中で、場所の問題だとか、様々なスペースの問題等々があるわけですが、対応すべく努力をさせていただきたいと思います。とくに今、言われましたように、私も、この障がいというふうな言葉を使っていくあれなのですが、要はその、ノーマライゼーションですか、つまり障がいのある人も普通にその地域の中で生活ができる、そういった面ではお持ちの方のそのバリアと言いますか、その障壁を失くして行くのだということは、やはり行政の役割でもあるのだらうと思いますので、今後の中で公共施設、役場も含めて必要などころには順次そんな対応もして行きたいし、ご質問のように本当に町民の皆さんだけではなくて、観光地としてお越しになる障がいをお持ちの皆さんの対応としても、大事なご指摘だと思いますので、しっかり対応していきたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) 良かったと思います。やはり声を上げるべきですね。ネットで見ましたら、パウチ交換のためのトイレが50万円前後、工事費別で、専用の便座が13万円前後でした。そんなに高いものではないと思うのですけれども、ぜひ多目的トイレにこれから設置していくことを実行していただきたいと要望いたしまして、次の質問に移ります。最近、給食という食事が、いかに子どもたちの健康に役立っているかが、世界的にも認識されるようになってきているそうです。信濃町では一昨年、コロナ禍により学校が長期の休みになりました。給食もなくなりました。でもその時、家庭の事情で給食がその日唯一の栄養源になっているお子さんもいる、長い休校で栄養失調の危惧もある、もはや各家庭単体での対応には限界が来ていて、免疫力を高める栄養バランスの良い食事が必要である。子どもたちに最善最大の支援をお願いします、という請願が出ました。給食が唯一の栄養源になっているようなご家庭もあるのなら、それだけ大事な給食なのだと思います。そのような情勢の中で、信濃小中学校での食育も大変重要な位置を占めていると思うのです。食育とは、私などはちょっと軽く考えていたのは、箸の持ち方とか、食事は楽しくのマナーだとか、そういうことばかり頭に浮かびがちなのですけれども、例えば命に関わる大切なことであると、食べることは、栄養をちゃんと取って、

食べることは命に関わる大切なことであるという観点から、子どもたちが安心して安全な、そして栄養豊富な食事を取って健やかに育つよう、教育の場だけでなく大人たちも食育を通して共に学びつつ、心配りをしていくべきではないかと思っております。食育って一体何なのだと、これネットで見ますと、文科省、農水省、厚労省などが連携してその象徴らしい食育を推進している例があります。例えば農水省は、ちょっと長くなりますが読ませていただきます。農水省は、食育は生きる上での基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて食に関する知識と、食を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てることです。ちょっと、後は略させていただきます。それから文科省ですね。学校における食育の推進、学校給食の充実というタイトルで、近年偏った栄養摂取、朝食を食べないなど、食生活の乱れや肥満、痩身、これ痩せる身と書きます痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。また食を通じて、地域等を理解することや、食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することも重要です。こうした現状を踏まえ、平成17年に食育基本法が、そして平成18年に食育推進基本計画が制定され、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においても積極的に食育に取り組んでいくことが重要となっています。文部科学省では栄養教諭制度の円滑な実施をはじめとした、食に関する指導の充実に取り組み、また、学校における食育の生きた教材となる学校給食の充実を図るため、より一層の地場産物の活用や、米飯給食の充実を進めています。厚労省のほうもあるのですが、厚労省はさすがに子どもだけではなくて、高齢者の食事などに関しても、やはり食育の分野として考えているようです。そこでお聞きしたいのですが、信濃町の教育現場での食育の内容というのは、どういう事を主眼にしているのでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤教育長。

■教育長(佐藤尚登) 給食に関するご質問にお答えします。議員ご指摘のとおり、成長期にある子どもたちにとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣の形成にも大きな影響を及ぼします。このようなことから子どもたちが食に関する正しい知識と、望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校において食育を推進していくことは大変重要であり、また保護者の皆様のご理解も必要であると思っております。学校における食育については、先ほど議員がご指摘の部分と若干重なるかもしれませんが、平成20年に小中学校学習指導要領において、学校における食育の推進が盛り込まれ、平成21年に改正された学校給食法の第1条に、学校における食育の推進が規定されました。また現行の学習指導要領は、平成29年告示なのですが、29年告示の指導要領では、学校における食育の推進がこれまで以上に明確に位置付けられ、小中学校では各教科等における指導と相互に関連させながら、学校教育活動全体で食育を推進することとされています。これが大きな枠組みです。信濃町教育委員会としては学校と一体となり、食育基本法、学校給食法および学習指導要領等を

ふまえ、食に関する指導の充実や給食の管理に努めてまいりました。具体的には生涯を通して健康的に生きていくことができる知識と、実践力を身に付けること、および、地元の食材を多く使うことにより、食の面からふるさと信濃町のことを知ることを主眼としています。保護者との連携については、毎月発行の献立表、食育だよりを通して、子どもたちの健康と成長についてお知らせしています。なお現在、コロナ禍にあつて、中止を余儀なくされていますが、保護者の施設見学や給食の試食会を実施し、給食を食べながら栄養教諭が献立および食事の重要性について話をしたり保護者のご意見をお聞きしたりする機会を設けています。また学校給食センターには運営委員会があるわけですが、運営委員会の委員としてPTAの役員の皆さまにもご出席いただいて、学校給食の取組全般についてご意見をいただいているところです。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) 詳しくありがとうございました。保護者の意見というのは、そこぐらいですか。私のところには、やはり安全な食べ物を使ってもらいたいとか、できたらオーガニックですね、そういう食材を使ってほしいとかいう意見もきています。この9月定例会の時に、社会文教常任委員会での審査の中で、教育委員会の答弁によれば、信濃町の学校ではお米は100パーセント地元産、野菜も冬以外はできるだけ地元産を使うようにしていると、そういう答弁をいただきました。これ素晴らしいことだと思うのです。冬は難しいとしても、子どもたちの安全で健康的な食生活のために、今、おっしゃった以外の具体的な取組みはありますか。例えば、今言ったようにできるだけ有機食材を使うとかです。それと、もう一つ、安全な食べ物を給食で提供するために、人工甘味料や合成着色料等について、町では何か規制をしておりますか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤教育長。

■教育長(佐藤尚登) お答えします。町の第2次信濃町教育大綱では、地域全体で子どもを守り育てる教育環境づくりを基本方針のひとつとし、その主要施策において地域食材を使った豊かで美味しい給食を提供し食育と地産地消を学校給食センターで推進します、と掲げています。そこで、学校給食の具体的な取組みについて申し上げます。まず、食材については、1点目、給食食材は国産地場産物を中心に使用しています。2点目、地産地消の取組みとして週4回提供する米飯は町内産特別栽培米のあきたこまちを使用し、乳製品の一部についても町内産を使用しています。また野菜類については、産業観光課と連携して、信濃町ふるさと振興公社や町内農家から購入したものを使用しています。3点目、冬期においても雪まち野菜としてキャベツや人参、ホウレンソウを納入していただけたようになったところです。4点目、地域独特の地元食材である、ネマガリダケが今シーズン始まりましたけれども、そういったものは児童生徒の有志を募って皮むきをして食材としています。郷土料理の笹寿司なども給食に出しています。次に献立と栄養

の配慮についてですが、1点目として、季節感のあるものとして、旬のものを多く取り入れた献立や、家庭では取り入れにくい食品類、例えば大豆製品、海藻類、緑黄色野菜、乳製品、魚介類、イモ類、種実類などを使用しています。2点目として咀嚼力の必要な献立を取り入れています。たくさん噛むようなメニューですね。3点目、糖分塩分を控えて薄味にし、素材のうま味を引きだしています。4点目、生活習慣病予防のために動物性脂質の取り過ぎに気をつけています。そして学校と給食センターの連携については、1点目、学校給食センターで月1回献立会議を実施し、学校の教職員の皆さんと献立原案について検討および意見交換を行っています。2点目、各学年児童生徒たちが考えたお楽しみ献立を実施しています。3点目、季節の行事食、例えば、七草がゆ、節分、ひな祭り等や、生徒会の企画を実施しています。令和3年度においては、保健給食委員会によるセレクトデザート給食や、図書委員会の読書旬間に合わせて、絵本などに出て来るメニューを献立に取り入れました。4点目、ランチレターをクラスごとに毎日配布しています。5点目、検食簿および連絡帳により、児童生徒教員との意見交換を毎日実施しています。それから人工甘味料、着色料ですが、食の安全について町独自の規制はありませんが、教育委員会としましては学校給食において使用する食材の安全性と調理を行う上で安全性の2点が重要であると考えております。お尋ねについては以上のようにお答えします。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) 信濃町の子は幸せだなあと思いました。それと、人工甘味料とか合成着色料に関しては、やはりこの、こんな赤は自然界にないだろうと、紫が入っているぞという、そういう経験が昔、古海小学校にいた時にあったものですから、聞かせていただきました。やはり、ちょっとでも健康を損なうようなものは、なるべく使わない方が良いと思います。また話が変わるのですけれども、給食に出てくる食べ物が、どういう経路をたどって、自分たちの口に入るのか、例えば、種から、一番の食べ物の源と言えば、命の源と言っても良いのですけれども、種、種がどういう経路をたどって、どういう育て方をされて、どこから輸入されて、自分たちの口に入るのか。子どもたちは、それを食育として学習しているのでしょうか。種はどこから来ているのか、先ほどの乳製品の話も出ましたけれども、乳牛の飼料、餌ですね、どこから来ているのか、どういう薬が入っているのかいないのか。それらはまた、環境にとってどうなのか、などなど、種から始まって、自分の口に入るまで、食育として勉強しているのかお聞きしたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 佐藤教育長。

■教育長(佐藤尚登) 子どもたちが給食で食べている物が、由来と言いますか、どういうものなのかという事を学ぶ場面は、具体的には、食材の、小中学校の2年生が給食セン

ターにおいて、給食が実際にどのように作られているか、これは作る様子ですね。4年生は米作りで収穫したもち米を使って五目おこわと赤飯を給食のメニューにしています。さらに、地元産ではない食材、例えば魚介類についてもランチレターで、給食センターから配られるペーパーですね、取り上げるなどして、食べ物がどのような経路をたどって自分の口に入るのかを学習しています。コロナ禍前にはお米農家の方など地元の生産者と児童生徒の交流給食として、生産者にクラスに入ってもらって、子どもたちと一緒に給食を食べ、作っている様子を話していただき、質問を受けるというような機会を設けたりもしております。先ほど学習指導要領で、各教科や総合的な学習の時間などに関連付けて食育を進めるということですので、先ほど議員がご指摘になった、輸入食材だとか、あるいは種だとかというようなことは、必ずしも食育そのものとしてでなくても、例えば理科であるとか、社会であるとかの勉強の中で触れられる場面があると理解をしています。

●議長（佐藤武雄）森山議員。

◆8番（森山木の実）子どもたちが、自分が口にしている食べ物について知ることは、非常に大事な事だと思うのです。例えば今、日本の食料自給率は38パーセントくらいですよ。そういうことも勉強した方が良くと思いますし、種が今、本当に今、国産の種というのがかなり少なくなっていて、外国の圃場で作られた種を輸入している、だから高いものについている、そういう高い種を使って、皆さん農家の方が種を買って作っている。そういう、ちょっと大きくなると中学生くらいにならないと、なかなか分からないかも知れないのですけれども、そういう勉強をしていった上で、やはり何も添加物のない、農薬などできるだけ使わずに有機食材で給食を食べたほうが健康には良いのだなど、理解されると良いなと思うのです。千葉県はいすみ市が有名なのですけれども、有機食材、学校給食の100パーセントを有機米にすることに成功した自治体です。お米に関して、ですけれども。最初は手探りで農薬を使わない米作りを始めたのだそうです。市役所の職員と有志の農家で。ただ収量が安定しない、そんな苦労もあったそうですが、その苦労をどうやって乗り越えたかという、学校給食だけでなく、有機栽培を通して自分たちは将来どのような地域を目指すのか、地域の農業をどうしていきたいのか、地域の環境や食文化をどうしていきたいのか、いすみ市がどのような地域と認識され、どのような人たちに住んでもらいたいのか、という自分たちへの問いかけだったそうです。この問いかけでこの苦労を乗り越えていったと。いすみ市の住民にとっても、有機農産物の学校給食を進めることは、自分たちの地域そのものをどのような地域にしていきたいのか、ということと同じ意味だったということで、これは子どもさんに対する食育だけでなく、大人たちに対する立派な食育でもあったのだなど、この文を読んで思いました。信濃町で有機栽培をする農家もそうでない農家も、また消費者、私たち消費者も重要なファクターだと思います。信濃町の食生活にとって。まずはいろいろな立場を尊重して、地域経済を回すことも考えつつ、子どもたちの健康や環境を守るために、たとえ

お米だけでも、または一部の野菜だけでもオーガニック食材、有機食材を取り入れるということは考えられますでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤教育長。

■教育長(佐藤尚登) オーガニック食材というのを、化学肥料や農薬を使用しないで作られた食材と定義してお答えしますが、このような方法で栽培された野菜を使うことは、議員ご指摘のとおり、環境に負荷が少なく、望ましい自然環境や社会環境に繋がると考えられますので、ご指摘のとおり、全国的には、全国には先進的に導入している自治体があることも承知しております。一方で、これも議員ご指摘のとおり、給食に使用するためには、量的にも時期的にも安定的に供給されることが前提となりますので、それから当然価格の問題も大きなファクターになろうかと思いますが、とういうことで、すぐにそれに切り替えるということは、なかなか難しいかなと考えています。当町においては、先ほども申し上げたとおり、町内産の特別栽培米を使用していますけれども、保護者に給食費をご負担いただき、限られた給食会計予算の中で安全な給食の実施をしている現状をふまえて、現時点で取り入れるとういうことの計画はありませんけれども、オーガニック食材を使用した給食の調査研究はこれからもしてまいりたいと考えています。

●議長(佐藤武雄) 森山議員。

◆8番(森山木の実) いすみ市も15年かかったそうです。何も100パーセント有機食材にしましょうと今言っているわけではなく、たとえ10パーセントでも15パーセントでも良いので、まず第一歩、今、調査研究とおっしゃいましたけれども、そこから始めていけば、何とか実現して行くのではないかと考えています。先日、若い方たちが中心になって、黒姫駅の広場で有機野菜の苗を売ったりするイベントがありました。私も駆けつけたのですが、他にも、昨年、そば打ちコンテストでしたか、町の人たちが大変楽しんだイベントがありました。これは地に足のついた良い企画だったと思っています。そして今月の18日はまたフェイスブックで見たのですが、信濃町の伝統野菜について学ぼうとういう、町主催の、町主催ですか、の講座が開かれます。これ、こういう動きを見ていると、何かが変わり始めているのではないか、何か動き始めているのではないか、そんな予感がします。環境を守り、健康を守る、食育の基礎だと思っています。今の食材も価格高騰で給食のメニュー作りも大変だと思っています。町からの何とか予算をつけて、つけるなどして、給食の質を落とさないよう努力をお願いしまして私の質問を終わりにいたします。

●議長(佐藤武雄) 以上で森山木の実議員の一般質問を終わります。

この際、1時50分まで休憩といたします。

(終了 午後1時36分)